



TITLE:

彙報 (2008年1月-2008年12月)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

彙報 (2008年1月-2008年12月). 人文學報 2010, 99: 83-110

ISSUE DATE:

2010-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/134540>

RIGHT:

## 彙 報

2008 年 (平成 20 年) 1 月～2008 年 (平成 20 年) 12 月

### 研 究 状 況

#### 人文学研究部

##### 複数文化接触領域の人文学

班長 田中雅一

今年は、本研究班の実質三年目に当たる。参加者の個別発表を中心に活動した。この研究班は人文学国際研究センターの拠点プロジェクトでもあることから、センター主催の国際シンポや講演会も重要な活動の一部をなす。また、研究会の成果の一部は『コンタクト・ゾーン』誌で公表している。

2008年 1 月 7 日 「イラン立憲革命とグルジア義

勇兵―「狂信的なペルシャ人」との接触？」

報告：伊藤 順二

1 月 28 日 「『カーブル』会読 8」(pp. 74-86)

会読：二宮 文子

2 月 4 日 「『カーブル』会読 9」(pp. 87-98)

会読：稲葉 譲

2 月 18 日 「イタリアの「蚕種商人」の目に映る日本 ― 異文化との接触を中心に (1860-1880)」

報告：BERTELLI Giulio Antonio

3 月 3 日 「喪失の語りと創造の語りをめぐって ― チベット難民舞踊集団における伝統概念の検討」

報告：山本 達也

4 月 21 日 「複数文化接触領域研究の中間報告」

報告：田中 雅一

5 月 19 日 「『カーブル』会読 10」(pp. 99-109)

会読：小池 郁子

6 月 2 日 「明治インド留学生の記録 ― 小泉了諦・善連法彦のトルコ・欧州旅行その他」

報告：奥山 直司

6 月 16 日 「ディアスポラの知識人、タルル・アサド ― 他者と共に在ること」

報告：磯前 順一

6 月 30 日 「『カーブル』会読 11」(pp. 110-120)

会読：山野 香織

7 月 7 日 「米国人日本研究者が見た戦後日本 ― 1950 年代初頭のミシガン大学日本研究センターの研究を中心に」

報告：谷口 陽子

10 月 6 日 「格義 (かくぎ) と漢訳 ― 異文化接触領域としての漢語仏典」

報告：船山 徹

10 月 20 日 「チベット難民の最重要文化はいかに構築されたのか ― 記述と社会実践の接触領域としてのラモとショトン」

報告：山本 達也

11 月 10 日 「治療実践という接触領域 ― 西インド村落における不妊の病因論とその対処法」

報告：松尾 瑞穂

12 月 1 日 「カーブル ― 文化接触領域の都市」

報告：稲葉 稔

12 月 22 日 「カトリック世界と『ファンダメンタリズム』 ― 実体概念から概念の実体へ」

報告：藤原久仁子

移民の近代史 — 東アジアにおける人の移動 —  
(2006 年 4 月～2009 年 3 月) 班長 水野 直樹

19 世紀後半から 20 世紀前半の時期、東アジアにおいて様々な理由 — 世界資本主義システムへの包摂、日本帝国の膨張、各地域の社会的変動など — から、大規模な「人の移動」が生じた。しかし、この問題についての研究は、各国・地域別に論じられる傾向があり、総合的に考察されることは少なかった。主に日本、朝鮮、中国など各地域間の人の移動とその原因を検討し、人の移動の歴史的意味を考察することを目的として、歴史学（日本史・朝鮮史・中国史など）、地理学、社会学、経済学など諸分野の研究者の共同研究として運営している。

2008 年

2 月 9 日 「中国朝鮮族社会の変化とその意味 — 韓国との関係を中心として —」

(報告) 崔 佑吉

高全恵星監修・柏崎千佳子訳『ディアスポラとしてのコリアン 北米、東アジア、中央アジア』(新幹社、2007 年 10 月) (書評) 松田 利彦

3 月 8 日 「多木条次郎と朝鮮 — 多木農場と参政権問題について —」

(報告) 金 玄

「京都経済と朝鮮人労働者 — 西陣織を中心に —」 (報告) 高野 昭雄

4 月 12 日 「在満朝鮮人の生活実態と『安全農村』」 (報告) 金永 哲

「帝国日本と朝鮮人の移動 — 「内地」渡航、満洲移住と植民地放棄論・工業化論 —」 (報告) 水野 直樹

5 月 10 日 田中隆一著『満洲国と日本の帝国支配』(有志舎、2007 年 12 月、)

(書評) 松田 利彦

「日清戦争と朝鮮華僑 — 保護清商規則と華商条規を中心に —」

(報告) 李 正熙

6 月 14 日 「漁民の移動および移住と漁撈技術の展開 — 台湾東海岸の「移民村」におけるカジキ突棒漁を例として —」

(報告) 西村 一之

「不逞鮮人」と「台湾蛮人」 — 植民地期台朝関係史のための覚書 —

(報告) 陳ジョンウォン

7 月 6 日 「1920 ～ 30 年代の在青島日本居留民について — 土地租借権をめぐる日中間交渉を中心に —」 (報告) 長沢 一恵

「敗戦直後の村と人の移動 (復員・引揚・帰還) — 京都府南部地域寺田村を事例として —」 (報告) 安岡 健一

9 月 20 日 「「移民の適応」 — 社会学の古典から現在へ —」 (報告) 竹沢 泰子  
「「満洲国」成立初期の朝鮮人移民政策と在満朝鮮人生活実態」

(報告) 金永 哲

10 月 11 日 「海外在留「帝国臣民」の在留禁止制度の運用 — 政治犯関係の実例を中心に —」 (報告) イ・スンヨブ

「「農業帝国」と「海洋帝国」の比較から人の移動を考える — 近年のカリフォルニア学派に注目して —」

(報告) 籠谷 直人

11 月 8 日 「「日本帝国殖民地之比較研究」シンポジウム (台湾中央研究院台湾史研究所) に参加して」 (報告) 水野 直樹

「戦前日本在留朝鮮人の出版活動と印刷」 (その 1) (報告) 小野 容照

12 月 13 日 「植民地期朝鮮在住日本人の回想記 — 近年の刊行書を中心に —」

(紹介) 水野 直樹

「植民地台湾における朝鮮人の接客業 — 新聞・雑誌記事の検討から —」

(報告) 藤永 壯

虚構と擬制 — 総合的フィクション研究の試み

班長 大浦 康介

4 年目にあたる 2008 年は、小説、物語、写真、映画、歴史叙述、音楽、科学技術等とフィクションとの関係を探った。

研究発表は以下のとおり。

1 月 26 日 「私」という虚構 — ジャン・パウルの小説構造をめぐる — 池田 浩士

- 2月4日 フランク・マクギネス『ソナム川に向かって行進するアルスターの息子たちを見守り給え』を読む 小関 隆
- 2月25日 法的擬制の諸相  
ミカイル・クシファラス
- 6月2日 写真からフィクションへ—ケンドール・ウォルトンの写真論を手がかりに 河田 学
- 6月16日 「遊び」の内と外をめぐる 近藤 秀樹
- 7月7日 ミメシスと「かのように」—ヴォルフガング・イーザーとジャン＝マリー・シェフェールによるフィクションのアンソロポロジー 久保 昭博
- 10月6日 物語階層違反と虚構内虚構岩松 正洋
- 10月20日 透明人間の夢 大浦 康介
- 11月10日 グルジアとオセチアの「高貴な野蛮人」像 伊藤 順二
- 11月17日 映画『紅葉狩』の二面性—受容の場をめぐる— 上田 学
- 11月17日 「歴史小説」の可能性—『モーセと一神教』 小森謙一郎
- 12月1日 「命名をめぐる—逆シュミレーション音楽」前夜 三輪 眞弘  
(解説：岡田暁生)
- 12月15日 フィクションと現実の境界をあいまいにする技術 塩瀬 隆之

#### 人種の表象と表現をめぐる学際的研究

班長 竹沢泰子

2008年度が本研究班の最後の活動年度であることから、2008年は成果発表やその準備、またに国際的な学術交流に重点をおいた活動となった。具体的には論文集草稿の合評会、海外から来日中の研究者や外国人研究者による研究報告をそれぞれ複数回もった。また教育への還元としては、全学共通科目「人種概念の総合的理解」を提供し、リレー講義を行った。

12月に研究班が主体となり企画・実施した第12回京都大学国際シンポジウム「変化する人種イメージ—表象から考える」は、岩井茂樹教授の総合司

会のもと、松本紘総長による挨拶から始まり、横山俊夫副理事、金文京所長、実行委員長(班長)による挨拶、トロイ・ダスター氏およびエラ・ショハット氏による基調講演、個別の研究発表、若手研究者リレートーク、司会・コメントも含めると、総勢33名が演壇に立ったことになる。シンポジウム翌日には、基調講演者・報告者に、国内外から招聘した専門家が数人加わり、より発展した議論を専門家会議として行うことができた。

なお2009年3月には、シンポジウムの報告書を、5月には岩波書店から論文集を刊行した。

国際シンポジウムについては、研究班HPにてYoutube動画、挨拶・趣旨説明のテキスト、各報告のアブストラクト、メディア報道等を公開している。

(<http://kyodo.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~race/frame-symposium.html>)

京都大学オープンコースウェアでは、2008年度開講した上記科目および2007年度開講の「人種の表象とリアリティ」2科目について、それぞれシラバス・講義ノート、視覚教材等を公開している。

「人種概念の総合的理解」

(<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/institute-for-research-in-humanities-jp/a-holistic-understanding-of-the-idea-of-race>)

「人種の表象とリアリティ」

(<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/general-education-jp/zinbun-academy>)

1月11日(金)

「成果刊行の理論的枠組みについて」

竹沢 泰子

「精神分析とユダヤ的なもの」

立木 康介

1月12日(土)

“Excluded Presence: Shoguns, Minstrels and Japanese Encounters with the Black Other”

ジョン・ラッセル(岐阜大学)

「ポール・ブローカの形質人類学：政治の否定と変移説の否定」

アルノ・ナンタ

(フランス国立科学研究センター)  
 「コメント」渡辺 公三 (立命館大学)  
 3月15日(土), 3月16日(日)  
 成果刊行に向けた合評会 (合宿: 於  
 KKR ホテルびわこ)  
 4月25日(金)  
 “Follow My Footsteps: Audio Tourism, Race, and Gender”  
 カレン・シマカワ  
 (ニューヨーク大学)  
 5月30日(金) 成果刊行に向けた合評会  
 9月9日(火) 成果刊行に向けた合評会  
 9月26日(金)  
 「人間社会と心の個人差: 生命科学研究者の意見から」 東島 仁  
 (京都大学生命科学研究科)  
 「チンパンジーの協力行動: ヒトとの  
 共通点・相違点」 山本 真也  
 (京都大学霊長類研究科)  
 「矢崎弾『三代の女性』: 小説に描かれた  
 明治, 大正, 昭和の女性象」  
 小林 敦子  
 9月27日(土)  
 「博物館における展示表象行為をめぐって—記憶装置と他者表象—」  
 吉村 智博 (大阪人権博物館)  
 「写真史における人種」 生井 英考  
 (共立女子大学)  
 11月14日(金)  
 「成果刊行の序章について」  
 竹沢 泰子  
 「人間社会の心の個人差」 東島 仁  
 「日系ブラジル人が日本において表象  
 するブラジル文化」  
 エルナーニ・オダ (文学研究科)  
 「血を飲むユダヤ人」  
 小田 雄一 (人間・環境学研究科)  
 「カルチュラル・コンピューティング  
 について」 土佐 尚子  
 (京都大学学術情報メディアセンター)  
 11月15日(土)

“Blood, Land, and Conversion: Mestizization and the Politics of Belonging in Post-Independence Philippines”  
 Caroline Hau  
 (京都大学東南アジア研究センター)  
 “Searching for Self in the Global South: Representations of Jamaicans in Japanese Travel Writing”  
 Marvin Sterling  
 (インディアナ大学, 人文研客員)  
 12月6日(金), 7日(土)  
 第12回京都大学国際シンポジウム  
 「変化する人種イメージ—表象から考える」開催  
 12月8日(日) 専門家会議  
**啓蒙の運命—系譜学の試み** 班長 富永茂樹  
 本共同研究の最終年度にあたる2008年には、以下のとおりの18の研究報告があった。そのほとんどが報告書に収録される論文の執筆をめざした完成度の高いものであり、このあと年度末までに予定している4報告も加えて、報告書の作成に向けて動き出すことが可能になったと考えられる。ゲストによる3報告もまた、きわめて刺激的で、班員各位が論文を進めるうえで参考となる以上の意義をもつものであった。  
 研究会記録 (2008年)  
 1月18日 「労働は自由にする—ナチズムにとって自由とは何か」 藤原  
 2月1日 「啓蒙と『投資社会』」 坂本  
 2月29日 「フランス19世紀末における『道徳』と啓蒙」 白鳥  
 3月14日 「啓蒙が法になしたこと」  
 ミカエル・クシファラス (ゲスト)  
 3月28日 「啓蒙とその『危機』: 1763年から1781年までのレナル/ディドロ/ネッケル」 王寺  
 4月25日 「ル・メルシエ・ド・ラ・リヴィエールにおける啓蒙と神秘主義—『幸福な国民またはフェリシー人の政体』(1792)における宗教—」 増田

- 5月9日 「啓蒙とフィクション論」 久保
- 5月23日 「マルセル・ゴーシュ『世界の脱魔術化』と『近代の革命』をめぐって」 宇野
- 6月6日 「ヨハネス・ルドルフス・アネピグラフスの幾何学的月世界旅行」 長尾
- 6月27日 「永遠平和の運命 — アベ・ド・サン＝ピエール, ルソー, カント」 多賀茂
- 7月4日 「トクヴィル, サルミエントとラテンアメリカの非民主主義」 松下
- 7月18日 「終わりある〈啓蒙〉と終わりのなき〈啓蒙〉: スピノザ/ルソーとその後」 佐藤
- 9月26日 「〈啓蒙〉と〈パレーシア〉あるいは主体化の交差と遍歴 — フーコー晩年の講義を読む」 市田
- 10月10日 「欠如の経験をめぐって: 19世紀ユダヤの知の理論から」 向井
- 10月24日 「ディドロと二重のエクリチュール」 李永睦 (ゲスト)
- 11月7日 「世界の脱弁証法化 — ハーバーマスの『コミュニケーション行為の理論』を中心に」 齊藤渉
- 12月5日 「シャトーブリアン: 旧世界と新世界の間で」フランソワ・アルトーグ (ゲスト)
- 12月19日 「反革命と啓蒙 — バリュエル, ド・メーストル, ラ・アルプの場合」 桑瀬

## 近代古都研究

班長 高木博志

2008年度には、「歴史と都市」をめぐり、京都・奈良、首里、仙台、金沢などの研究が報告された。そのほか、岡山における城下町の近代、都市の水利構造などの研究報告と実地調査も行った。軍都、古都などの概念や都市の歴史性についても検討している。2009年度には、仙台の調査を予定に入れている。また前回の共同研究班の報告書として『近代京都研究』（思文閣出版、2008年、丸山宏・伊從勉との共編）を刊行した。

2008年

- 1月12日 「古社寺保存と近代京都の建築造営」 清水 重敦

- 「近世畿内における神功皇后伝承 — 御香宮神社と桂女・祇園会を中心に」 野村 奈欧
- 3月15日 「十五年戦争と京大図書館」 廣庭 基介
- 「ランケの日本的領有」 小山 哲
- 4月19日 「近代京都の名所 — 桜や古典文学を手がかりに」 高木 博志
- 「実業家武岡豊太と三都の歴史 — 神戸史談会・皇陵巡拝会・乃木神社」 黒岩 康博
- 5月10日 「日吉山王社の近世 — 2, 3の問題」 John Breen
- 「地価分布の変化からみた近代東京の地域構造の一断面 — 旧東京市神田区域の場合」 山田 誠
- 6月21日 「『軍都』論の再検討」 原田 敬一
- 「城下町の近代と『古都』イメージ — 百万石の『伝統』文化」 本康 宏史
- 7月25・26日 岡山巡見（岡山大学構内旧陸軍施設・同大学附属図書館池田家文庫・後楽園）案内: 小野 芳朗・万城 あき
- 9月19日 人文科学研究所旧東方部書庫見学・黒谷文人墓掃苔 案内: 岡村 敬二・廣瀬千紗子
- 10月18日 「大京都の時代の都市計画 — 近年発見の史料から歴史資料の伝来を考える」 秋元 せき
- 「明治維新史の再検討 — 気になっている諸点」 岩井 忠熊
- 10月25日 名古屋巡見（徳川美術館・名古屋城・旧中村遊廓）案内: 並木 誠士・朝日美砂子
- 11月22日 「権門寺社の歴史と奈良町の歴史との間」 幡鎌 一弘
- 「敗戦前後の佐々木惣一 — 近衛文麿との関係を中心に」 松尾 尊兌
- 12月20日 「軍都・学都・杜の都と仙台 — 生活暦（祭りと年中行事など）と戦死者祭祀の変遷」 佐藤 雅也

「米軍統治下沖縄の自治的都市計画 —  
1972 年施政権返還前に本土並み都市  
計画制度に復帰した琉球政府の選択」

伊従 勉

# 第一次世界大戦の総合的研究に向けて

班長 山室信一・岡田暁生

2007 年 4 月以来、本研究班では、戦後世界まで  
を視野に入れつつ、さまざまな角度から第一次世界  
大戦の歴史的インパクトの内実を明らかにする作業  
を続けてきた。2008 年度には、美術史、文学史、  
歴史学、思想史、等の視点からの報告があった。ま  
た、2008 年度後期には全学共通科目として「人文  
研アカデミー：第一次世界大戦と現代社会」をリ  
レー講義の形式で開講し、100 名をこえる受講者を  
得た。なお 2007/8 年度の研究会を通し、第一次世  
界大戦がヨーロッパ外の現代史において、予想以上  
の影響を与えていたことが明らかになった。従って  
2009 年度は主としてこの問題に焦点を当て、研究  
班を継続することとする。

研究会記録（2008 年）

1 月14日(月)

「切断の時代 — 第一次世界大戦前後の  
美術の諸相」 河本 真理

1 月28日(月)

会読：The Oxford Illustrated History of the First World War. Chaps.  
4, 5, 9, 10, 19, 21

(担当：王寺 賢太, 伊藤 順二,  
藤原 辰史)

2 月18日(月)

「『欧洲大戦』と日本の『新興文学』—  
文学史を読みかえる試みのひとつとし  
て」 池田 浩士

4 月21日(月)

「戦火挙がる — 第一次世界大戦と日本  
人（その1）」 山室 信一

5 月17日(土)

「被治者の合意」と集産主義 — アメリ  
カの「偉大なる戦争」 中野耕太郎

5 月26日(月)

「観戦武官酒井鎬次 — 第一次大戦をめ  
ぐる軍人の思想を考察してゆくための  
準備」 片山 杜秀

6 月14日(土)

「総力戦の論理と徴兵制 — オーストラ  
リアにおける徴兵制国民投票をめぐっ  
て」 津田 博司

6 月23日(月)

「南アフリカと第一次世界大戦」  
堀内 隆行

7 月14日(月)

「戦争神経症 — リヴァーズとフロイト、  
時々、サスーン（とグレイヴズ……）」  
富永 茂樹

10月11日(土)

「ハンガリーから見た第一次世界大  
戦：1918 年の歴史的演奏会を中心に」  
伊東 信宏

10月27日(月)

「第一次世界大戦とインド — 民族運動  
の転換点としての大戦」 田辺 明生

11 月 8 日(土)

「A New Hope 新たなる希望 — 三輪  
常次郎「執務文書」からみた第一次世  
界大戦期と戦後」 籠谷 直人

12 月 8 日(月)

「青野原俘虜収容所の世界 — 非総力戦  
論序説 —」 大津 留厚

12月22日(月)

「日本における未来派の受容と神原泰  
の芸術」 高階絵里加

人文研アカデミー（講義）

10月 6 日(月)

イントロダクション：「ファースト」  
「グレイト」「ワールド」「トータル」

小関 隆

10月20日(月) 総力戦と徴兵制 小関 隆

10月27日(月) 音楽史革命と第一次世界大戦

岡田 暁生

11月10日(月)

第一次世界大戦と「クラシック音楽」



- の終わり 岡田 暁生  
 11月17日(月) フランス文学における第一次世界大戦  
 (1) 久保 昭博  
 12月1日(月) フランス文学における第一次世界大戦  
 (2) 久保 昭博  
 12月8日(月) 西洋思想史のなかの第一次世界大戦  
 (1) 王寺 賢太  
 12月15日(月) 西洋思想史のなかの第一次世界大戦  
 (2) 王寺 賢太  
 12月22日(月) 食糧と第一次世界大戦 (1) 藤原 辰史  
 1月5日(月) 食糧と第一次世界大戦 (2) 藤原 辰史  
 1月7日(月) 第一次世界大戦と日本 山室 信一  
 1月19日(月) 第一次世界大戦がもたらしたもの 山室 信一  
 人文研アカデミー (レクチャーコンサート)  
 11月18日(火)  
 「第一次世界大戦のあと — 狂乱の  
 1920年代 (カウエル, ゴドフスキ,  
 ソラブジ, ガーシュインほか)」  
 岡田 暁生 (解説),  
 小坂 圭太 (ピアノ)

## 王権と儀礼

班長 藤井正人

本共同研究は、王権と儀礼との関係を古代インドの王権儀礼を中心に研究することを目的としている。ヴェーダ文献を基礎資料にしているが、インド学の諸分野のほか、言語学、歴史学、考古学、美術史、人類学などの複数の視点から資料を分析するとともに、さまざまな時代と地域における王権と儀礼に関わる問題を比較研究の対象としている。

隔週に開いている研究会では、会読と報告をほぼ交互に行なっている。会読では、ヴェーダ祭式文献の中から王即位式 (ラージャスーヤ) に関するすべての箇所を読解し、この儀礼に関する資料の集成を

めざしている。報告では、王権と儀礼に関係してさまざまな分野の異なる視点から報告をおこなっている。4年目の今年度は、会読については関連資料の約9割の検討を終え、報告については、ヴェーダ祭式学、写本研究、言語学、インド哲学の分野から報告を受けた。

本年度で研究を完了させる計画であったが、研究範囲が当初の予想以上に拡大したために、期間をさらに2年延長し、会読に関しては、資料の読解を終えたあと、全体の再検討を行ないながら全資料の訳注出版のための編纂作業をおこなう。報告については、研究視野の拡大を続けるとともに、これまでの報告を深化・発展させ、さまざまな地域と時代の王権と儀礼をめぐる論文集にまとめる予定である。

## 研究会記録

- 1月18日 (会読15) Vadhula-Srautasutra 10, 7, 43-10, 8, 13 小林 正人  
 2月1日 (報告16) 灌頂の儀礼空間 — インドから日本へ — 森 雅秀  
 3月21日 (報告17) Cambodian inscriptions of the seventh century: a general introduction through the study of a hitherto unpublished example: K. 1254. Dominic Goodall  
 5月30日 (会読16) Vadhula-Srautasutra 10, 8, 14-28 堂山英次郎  
 6月27日 (会読17) Vadhula-Srautasutra 10, 8, 29-49 梶原三恵子  
 7月11日 (報告18) 祭主の潔斎 — ソーマ祭と王権儀礼における 大島 智靖  
 10月3日 (会読18) Vadhula-Srautasutra 10, 9, 1-10, 10, 16 手嶋 英貴  
 10月17日 (報告19) バイッパラダ・サンヒター写本の研究 土山 泰弘  
 10月31日 (会読19) Vadhula-Srautasutra 10, 10, 17-24 大島 智靖  
 11月14日 (報告20) オラオンとバハリアはどこから来たのか 小林 正人  
 12月8日 (報告21) Neti, neti — Not this? Not that? Not so? No, no? — In quest of the original meaning



of Yajnavalkya's neti-neti formula  
in BAU Walter Slaje

古典のなかのアジア史

班長 籠谷直人

今年は、本研究班の一年目に当たる。近世・近代アジア史の「古典」的研究についての、テキストを読み解きながら、「アジア史の分析視角と方法」について議論した。

初年度はまず「経済史を」基礎にして、テキストを選び、参加者の会読と担当報告の2本立てを柱に活動した。以下は担当報告である。最終年には、学生・院生を対象にした『近世・近代アジア史要覧』（仮）の作成を目指したい。

4月18日 「共同研究班の立ち上げにあたって」

報告：籠谷 直人

The Rise of the Western World  
(Cambridge University Press 1973)  
(D. C. ノース & R. P. トマス (速水融  
ほか共訳)『西欧世界の勃興』ミネル  
ヴァ書房, 1980年)

テキスト：Douglass C. North and

Robert Paul Thomas  
Edward A. Wrigley, Continuity,  
chance and change: The character  
of the industrial revolution in Eng-  
land (邦訳は、エ. ア. リグリュイ (近藤  
正臣訳)『エネルギーと産業革命—連  
続性・偶然・変化—』同文館, 1989  
年)

4月25日 「「アーサー・ルイスの「労働の無制限  
供給」論を読む」 報告：脇村 孝平  
Racial Conflict and Economic De-  
velopment (Harvard University  
Press 1985) (邦訳は勝俣誠ほか訳『人  
種問題のなかの経済』産業能率大学出  
版部 1988年)

テキスト：W. Arthur Lewis

4月29日 「「B. トムリンソン」のインド近代史  
を読む」 報告：木谷名都子  
The political economy of the Raj,  
1914–1947: the economics of decol-

onization in India (Macmillan  
Press, 1979)

テキスト：B. R. Tomlinson

The Economy of Modern India,  
1860–1970 (Cambridge University  
Press, 1993) B. R. Tomlinson

The Indian National Congress and  
the Raj, 1929–1942: the penulti-  
mate phase (Macmillan, 1976)

B. R. Tomlinson

「「関係の風化」?—1950–70年の英印  
経済関係」(秋田茂・水島司編『現代  
南アジア 世界システムとネットワー  
ク』, 東京大学出版会, 2003年)

B. R. トムリンソン

5月31日 「Mark Elvin の“The High-Level  
Equilibrium Trap”論について」

報告：城山 智子

The Patten of the Chinese Past (Sta-  
nford University Press, 1973),

テキスト：Mark Elvin

Another History: Essays on China  
from a European Perspective  
(Sydney: Wild Peony, 1996)

Mark Elvin

6月28日 「ピン・フォンとK. ポメラントフの  
「18世紀中国論」を読む」

報告：籠谷 直人

China Transformed: Historical  
Change and the Limits of Europe-  
an Experience (Cornell University  
Press, 1997)

テキスト：Roy Bin Wong (王国斌)  
The Dreat Divergence: Europe,  
China and the Making of the  
Modern World Economy (Prince-  
ton, 2000) Kenneth Pomeranz

9月20日 「トマス C. スミス論の「近世・近代日  
本史」を考える」 報告：大島真理夫

(ゲストとして依頼)

Political Change and Industrial De-

velopment in Japan: Government Enterprise, 1868-1880, (Stanford University Press, 1955) (邦訳は, 杉山和雄訳『明治維新と工業発展』東京大学出版会, 1971年)。

テキスト: Thomas C. Smith  
The Agrarian Origins of Modern Japan, (Stanford University Press, 1959) (邦訳は, 大塚久雄訳『近代日本の農村の起源』岩波書店, 1970年)。

Thomas C. Smith  
Native Sources of Japanese Industrialization, 1750-1920 (University California Press, 1988) (邦訳は, 大島真理夫訳『日本社会史における伝統と創造 — 工業化の内在的諸要因 1750-1920年 (増補版)』ミネルヴァ書房, 1995年)。  
10月25日 「K. N. チョードリー, A. リードのインド洋海域史論を読む」

報告: 藪内 信幸  
Trade and Civilization in the Indian Ocean (Cambridge University Press 1985)

テキスト: K. N. Chaudhuri  
Southeast Asia in the age of Commerce 1450-1680 (Yale University Press 1988) (邦訳は, 『大航海時代の東南アジア』全2巻, 法政大学出版会, 2002年)  
A. Reed

11月29日 「H. ボーエンの18世紀後半イギリス東インド会社論」 報告: 谷口 謙次  
The Study of the English East India Company in the late of 18th Century ( )

テキスト: H. V. Bowen  
12月13日 「山田盛太郎における「高額小作料と低賃金の相互規定関係」をアジア史に位置づける」 報告: 籠谷 直人  
『日本資本主義分析』岩波文庫, 1977年 (初版 1934年) 報告: 西村 雄志

テキスト: 山田盛太郎  
「ケインズの「インド通貨論」について」

「インドの通貨と金融」『ケインズ全集』第一巻, 東洋経済新報社, 1977年  
テキスト: 則武 保夫ほか訳

12月20日 オーラル・ヒストリー会議: 「戦後のアジア・ネットワーク」

(中国現代史研究会, 神戸華僑華人研究会と共同開催)

金 翬 (大阪華僑総会名誉会長)  
吉澤 宏始 (日中経済貿易センター元理事長)  
土井 英二 (兵庫県貿易監査役)

外から見た近代日本の記録 班長 Silvio Vita

本研究班は平成20年度一年限りで実施されたが, 実質的には来年度以降の研究班運営のための準備作業として, (1) 関連分野を研究する, 特に外国人研究者のネットワークの確立, (2) 個別の研究発表, という活動を行った。秋期には班長の本務のため, 研究会の定期的開催が困難だったが, 年明けに数回の研究班を予定している。

2008年

5月12日 「外交を越えて — 長い19世紀の日英関係」 報告: ロンドン大学 SOAS  
Angus Lockyer 教授

6月9日 「極東への北極通路 — スウェーデンのヴェガ号探検隊が見た明治日本」報告: ストックホルム大学日本学部

Gunilla Lindberg-Wada 教授  
7月14日 “It is Japan but yet there is a difference somehow”: Editorial Change and Yezo in Isabella Bird's 'Unbeaten Tracks in Japan'

報告: 京都大学人間・環境学研究所  
Andrew Elliott 氏

人文研探検 班長 岩城卓二・菊地 暁

本研究班は, まもなく80周年を迎える人文研の歴史を, 基礎的データに基づいて検証し, 日本の人

文・社会科学のあり方を再検討する試みである。本研究班の対象は、人文研の活動により産み出されたさまざまなプロダクトであるが、大別して①人文研の研究者により執筆された著作、②人文研が擁した人的資源、③人文研の活動により集積された資料群、④いわゆる「共同研究」スタイルから「カード・システム」といったさまざまなレベル的方法的蓄積、がある。これらを相互に関連させて把握することが本研究班の課題となる。本年は昨年度に引き続き、基礎的データの整理作業を主眼とした。地下文書室の文書整理や関連研究機関の所蔵資料調査、人文研のプロジェクトに携わった研究者からの聞き取り調査、などである。

1月11日 「西周と近代—日本学問史への構想—」 樺山 紘一  
(ゲスト：印刷博物館 館長)  
(文明と言語班と共催)

4月21日 新村記念財団重山文庫調査  
6月30日 新村記念財団重山文庫調査  
7月14日 新村記念財団重山文庫調査  
7月16日 文書整理  
11月10日 文書整理  
11月17日 文書整理  
12月11日 文書整理

## 文明と言語

班長 横山俊夫

当研究班は、文明化の過程において言語という社会媒体がどのように変容するか、その諸相を、前近代東アジア文芸学から現代の生物、生命科学にいたる多様な分野の事例研究を基礎に検討する意図で2002年度に発足。2007年3月に当初予定した5年間の活動を終え、整理期間としての2007年度には、16回の研究会合のほか、輪読資料『難波鉦』校訂ならびに現代上方語訳の第二冊を編集(2008年刊)、研究報告書の執筆、編集作業にとりかかった。

1月11日 「西周と近代—日本学問史への構想—」 樺山 紘一  
(ゲスト：印刷博物館 館長)  
2月9日 『難波鉦』校訂「空蟬」 廣瀬千紗子  
「ヒトゲノム研究の新時代とデータの共有—科学を通した連帯は可能か？」

加藤 和人

2月23日 『難波鉦』校訂「初髻」 古勝 隆一  
「義太夫節はどう語られるか—さまざまな義太夫節—」 後藤 静夫

## 東方学研究部

### 中国絵画の総合的研究

班長 曾布川寛

中国絵画の資料は、発掘に基づく古代・中世作品の出現、伝世する近世作品の公開などによって、近年ますます増加の一途をたどっているが、多くは未消化のまま放置されているのが現状である。この膨大な資料に対して、まずデータベースによる系統的整理が必要であり、また多方面からのアプローチが要求されている。本研究班は可能な限り資料を収集し、様式論、図像学、画論、技法はもとより、パトロン、蒐集などの観点から考察し、更に書法・篆刻、詩文などの面からのアプローチも加え、総合的な研究を試みる。今年度は、山西省太原市考古研究所所長の李非氏、ウクライナ国立考古学研究所のユーリー・パブロビッチ・ザイツェフ氏に講演をしていただくとともに、『中国石窟寺院と石経』、『中国と朝鮮の絵画』と題して二回のワークショップを行った。班員及びゲストスピーカーによる発表は、以下の通りである。

1月21日 趙孟頫「呉興清遠図巻」について 西尾 歩  
2月4日 (伝)李成「喬松平遠図」(澄懷堂美術館蔵)について 竹浪 遠  
2月18日 彬県大佛寺石窟大佛の研究 張 南南  
2月23日 山西省太原の新出土文物 李 非  
4月28日 『天馬展』解説 永井 洋之  
5月12日 ウクライナ・ウストゥアルマ出土の漢代漆器とその文様  
ユーリー・パブロビッチ・ザイツェフ  
徐顕秀墓壁画の様式について 河野 道房  
5月26日 中国芸術における「精」 宇佐美文理  
6月9日 唐代佛教美術におけるインド佛教美術の影響 西林 孝浩

- 6月23日 北礪居簡の墨蹟をめぐって 山本 孝子  
弓野 隆之
- 7月7日 李成・郭熙と李郭派の山水画 藤井 律之  
塚本 麿充
- 10月13日 『崇高なる山水—中国・朝鮮, 李郭系  
山水画の系譜—』解説 塚本 麿充
- 10月27日 中国絵画における模倣の価値について  
宇佐見文理
- 11月29日 ワークショップ『中国石窟寺院と石  
経』 高 啓安  
山西風峪の華嚴経刻経—石刻と拓本  
の比較対照 顔 娟英  
敦煌莫高窟第 285 窟壁画日中共同調査  
の成果から—文化財研究の可能性—  
岡田 健・高林 弘実  
雲岡石窟再考 曾布川 寛
- 12月8日 ワークショップ『中国と朝鮮の絵画』  
趙孟頫絵画の意味についての考察  
—鵲華秋色図のイコノロジーを端緒  
として— 西尾 歩  
朝鮮前期の瀟湘八景図—東アジアの  
視点から 板倉 聖哲  
沈南蘋と肖像画 西上 実
- 2月25日 俄藏敦煌文献所收「月令」小考  
劉景云《法藏敦煌西夏文献》考訂に  
ついて 池田 巧
- 4月7日 敦煌文献中の應用文書—以齋願文本  
爲中心的考察
- 5月19日 釋“驢驘”—一道唐代名饌的考察  
高 啓安
- 6月2日 『賢劫千佛名經』について 山口 正晃
- 6月16日 英藏敦煌寫本 S. 5257 (1) 敕旨京城  
諸寺各寫示道俗侵損常住僧物惡報靈驗  
記, (2) 東夏顯正略記, (3) 律殘卷  
について 米田 健志
- 6月30日 『杜家立成雜書要略』初探—敦煌書儀  
等との比較を通して 永田 知之  
重繪孩提時代: 追尋兒童在中古敦煌歷  
史上的蹤跡(嬰戲篇) 余 欣
- 7月14日 《俄藏黑水城文献》「亡牛偈」續考  
蔡 榮婷
- 9月22日 西陲發現の唐律殘片について  
辻 正博  
吐魯番高昌供食文書中の肉食量詞  
高 啓安
- 10月20日 西陲發現夾注本黃石公三略小考  
藤井 律之  
麥粟種亨 高田 時雄
- 11月17日 西域出土の考課關連文書をめぐって  
—巴達木二〇七號墓出土文献を中心  
に 松浦 典弘  
『法門名義集』をめぐり二, 三の考察  
米田 健志
- 12月1日 句道興『搜神記』と道宣 玄 幸子  
吐魯番文書における「群牧」と「市馬  
使」 中田 裕子

## 西陲發現中國中世寫本研究

班長 高田時雄

19世紀末以來, 敦煌・トルファンさらに東トル  
キスタン各地の遺蹟から數多くの寫本が発見された。  
しかし, これらの寫本の研究は, 資料の公開整備が  
格段に進んだこと, 寫本研究の方法が嚴密化したこ  
となどにより, 近年全く新しい段階に入ったと言え  
る。本研究班では, 漢文寫本を中心とし, 歴史・宗  
教・言語・文学など様々な角度から検討を加え, 西  
陲發現寫本の総合的な研究を展開する。なお昨年度  
の報告は『敦煌寫本研究年報』(第二號) として刊  
行された。

2008年1月より12月までに行われた研究発表は  
以下の通り。

- 1月28日 A 10th century Dunhuang manu-  
script on the Gantong monastery  
at Liangzhou Imre GALAMBOS  
Dx. 01698「書儀」について

## 漢簡語彙の研究

班長 富谷 至

今年度も引き続き居延旧簡を中心として語彙を検  
討し, 語義を確定した。本研究班で確定させた語彙  
数は, 2008年末の時点で, 約1700項目となった。  
来年度は居延新簡のF22を対象とした語彙の抽出

も並行して行う予定である。

2008年度の担当者は次の通りである（排列は担当順）。

井波陵一，辻正博，吉村昌之，大川俊隆，藤井律之，鷺尾祐子，土口史記，馬場理恵子，目黒杏子，山元宣宏，森谷一樹，宮宅潔，富谷至，角谷常子，鷹取祐司，米田健志。

## 傳統中國の生活空間

班長 田中 淡

中國の傳統的な生活空間および造形，すなわち具體的には住まい，宮殿，庭園，あるいは家具配置，室内空間，日常生活と儀禮等々の諸相をととして，その特質を探る。時代・地方を限定せず，また建築空間に限らず，廣義的な意味で日常あるいは儀禮の生活空間を對象として，中國學の關連分野および東アジア，周邊地域の専門家の参加を得て，多様な研究主題をとりあげてゆく。研究発表と併行して會讀するテキストとして，明・方以智『通雅』宮室をとりあげる。この期間に行われた研究発表および會讀と擔當者は以下の通り。

2008 年

- 2月19日 元朝の皇室が造營した寺院 — チベット系要素と中国系要素 福田 美穂
- 3月4日 廣東珠江デルタにおける水上人の定住化と風俗習慣の變容 — 祖先・神祇祭祀，分家儀禮を中心に — 長沼さやか
- 4月22日 『宋史』災異史料に見える宋代住宅用語 塚本明日香
- 10月14日 見學會 北畠氏館跡庭園
- 10月28日 『通雅』卷三十八宮室 桓門 高井たかね
- 11月25日 『通雅』卷三十八宮室 屋極，趨樓 高井たかね
- 12月9日 『通雅』卷三十八宮室 畿，棖・闌 塚本明日香

## 三教交渉の研究（2）（2005－2009年度）

班長 麥谷邦夫

本研究班は，「三教交渉の研究」研究班の後を承け，引き続き中國中世における儒佛道三教間のかかはりをさまざまな角度から研究することを目的に，

2005年度から5年間の豫定で組織された。昨年は，陳垣『道家金石略』所收の隋唐道教關係碑文のうち以下の九碑の解讀を行った。

葉國重碑  
慶唐觀紀聖銘  
御制葉真人碑  
江州冲陽觀碑  
貞一先生廟碣  
天台山桐柏觀碑  
張探玄碑  
王屋山劉若水碑  
王屋山柳尊師真宮志銘

## 北朝石刻資料の研究

班長 井波陵一

前年度に引き続き，人文科學研究所所蔵の北朝石刻資料に關して，文字の對校，および訓讀・語注の作成をおこなった。本年取り上げた資料は，「元興墓誌」「鄭義碑」「論經書詩刻」「司馬景和妻墓誌」「瘞鶴銘」「齊郡王祐造像記」「刁遵墓誌」である。

## 20世紀中国の社会システム（2003. 4～2008. 3）

班長 森 時彦

清末から現在にいたる100年間における中国の社会システムの変動を多様な側面から総合的に検討してきた本研究班は，2008年3月をもって5年間の研究期間を終了した。20編余りの研究成果を掲載する報告論文集は，2009年6月の刊行をめざして鋭意編集作業を進めているところである。

- 2月1日 1930年代定県の政治空間 — 平教会と共産党との交差 袁 広泉
- 2月15日 清末中国の幣制改革に関する一考察 — ジェンクス委員会をめぐる 武上真理子

## 長江流域社会の歴史景観（2008. 4～2011. 3）

班長 森 時彦

本研究班（2008年4月－2011年3月の3年計画）は，中国の中枢部ともいべき長江流域社会が如何に形成され，如何に發展して近代世界と向きあうようになり，そして中国社会に如何なる影響を及ぼしたのかといった様々な問題を，人文学的，とり

わけ歴史学的なパースペクティブから多角的に解明することを目指してスタートした。

初年度は以下のような報告が行われた。

- 4月25日 長江流域社会の商品流通と近代化過程  
森 時彦
- 5月16日 為『尚書古文疏証』弁護 房 徳鄰
- 5月30日 北京政府期における「国歌」をめぐる  
論争について 小野寺史郎
- 6月13日 南潯与近代中国 桑 兵
- 6月27日 清末における日本浪人の在華事業 —  
井手三郎と『同文滙報』 王 萌
- 9月26日 戊戌変法前後孫宝瑄の社会活動と思想  
状況研究 項 巧鋒
- 10月10日 広東諮議局議員と在省知識人—賭博禁  
止議論を巡って 宮内 肇
- 10月24日 近代中国走向世界的海外游歴使  
王 曉秋
- 11月14日 20世紀前半、南京江心洲開発史：地  
主と農民の役割をめぐって  
片山 剛
- 11月28日 1920年代の上海閘北電廠、閘北水電公  
司について — 給水事業を中心に  
村田 省一
- 12月12日 奉天・大阪・上海 — 奉天雜貨商の  
ネットワークについて 上田 貴子

#### 漢字情報学の構築 (2004. 3 ~ 2008. 3)

班長 安岡孝一

本研究班の主眼は、漢字テキストをコンピュータというマナイタの上に載せて、何とかテキスト処理できるようにしよう、というものである。4年間の活動で一定の成果が得られたことから、2008年3月に本研究班を終了した。本年(2008年1月~3月)は、研究班の活動成果をまとめあげる作業に傾注し、報告書を2008年9月発行の『東方学報 第83冊』に掲載した。

#### 東アジア古典文献コーパスの研究 (2008. 4 ~ 2012. 3)

班長 安岡孝一

2008年4月に発足した本研究班では、明治~昭和初期に日本国内で作成された訓読漢文テキストを

コーパス化し、それを基に、漢文の意味構造を解析するシステムの研究・開発をおこなう。すなわち、これまで漢文を読むための技法に過ぎなかった訓読を、コンピュータによる文法解析メソッドの一つとして、情報学的視点から捉えなおす。本年は、コーパスの外堀を埋める意味で、漢文の構造解析に関する議論をおこなった。なお、本研究班では、参加者全員が文献や書籍を見ながら論じ合うというスタイルを取っているため、特定の発表者等は記さないことにする。

- 4月15日 Web 漢文大系
- 5月20日 『漢文大系』史記列伝
- 6月3日 訓点エディタ  
返り点のXML例と可視化結果  
表計算ソフトで訓点文を書く
- 6月17日 LEGOで作った全自動ブックスキャナ  
Kirtas APT 1200
- 7月1日 漢文訓読の数学的構造について  
訓点オートマトン  
訓読文を読む順序  
MeCabを用いた古典中国語の形態素  
解析の試み
- 7月15日 「項」の送り仮名にもとづいて、動詞  
が取る「格」を判定できるか
- 9月16日 琉球外交文書『歴代宝案』における構  
文解析の試み  
漢文文書の分かち書きと辞書生成につ  
いて
- 10月21日 科学研究費申請に向けて
- 11月4日 中国基本古籍庫  
漢文エディタ
- 11月18日 漢字文化圏の訓読現象  
漢字文化圏西端にも存在した「漢文訓  
読」  
「訓読」論(勉誠出版)
- 12月2日 チャンキングの段階適用による日本語  
係り受け解析  
相対的な係りやすさを考慮した日本語  
係り受け解析モデル
- 12月16日 依存関係表示と線条化変換



銀雀山漢墓竹書殘簡の整理 — 中国古代の基礎史料

班長 浅原達郎

1月から3月までは、研究室の引っ越しなどのため活動を休んだ。

去年は論文と古文字資料の2本だてで進めていたが、今年は古文字資料に一本化することにした。ただし、まずは読みかけの論文「寒食与改火 — 介子推焚死伝説研究」を片づけ（4月18日～6月20日）、次にやはり読みかけの上海博物館蔵楚簡・恒先を読み終え（6月27日～7月4日）、さらに同じく彭祖（7月11日）、采風曲目（9月19日～26日）、逸詩（10月3日）、昭王毀室（10月10日）、昭王与共之雎（10月17日）、東大王泊旱（10月24日～31日）、内礼（11月7日）、相邦之道（11月14日）に進んで、現在、曹沫之陳を読んでいる（11月21日～12月12日）。

読書記録をまとめる作業は、はかどっていない。『曰古』第11号（3月28日）に郭店楚簡の性自命出、成之聞之、『曰古』第12号（8月29日）に上海博物館蔵楚簡の孔子詩論、子羔、魯邦大旱の札記を掲載した。また、銀雀山竹書殘簡の整理作業も、進行が遅れている。

陰陽五行のサイエンス

班長 武田時昌

陰陽五行説は、物類や自然現象の法則性や相互関係を説明する原理として大いに用いられた学説であり、中国の諸分野において独自の理論構造を生み出すパラダイミ的な役割を果たした。これまでの研究においては、陰陽五行説の成立過程や配当説、それを援用した漢代の政治思想等に詳しい考察が試みられてきた。しかしながら、三国時代以降の史的展開や理論構造の特質については、十分な検討がなされているわけではないように思われる。そこで、自然科学に限らず思想、宗教から文学、諸技芸に至る多彩な分野において、天人感応、物類相感等を含めた陰陽五行の説明原理が、実際にどのように活用されているのかを分析し、包括的、複眼的な見地からその構造と特色あるいは限界性を考究したいと考えている。

2008年度は、引き続き『五行大義』巻二を会読し、班員による研究発表を行った。四月には、ケンブリッジ大学ニューダム研所長のChristopher

Cullen教授、フランス国立科学研究センター（CNRS）研究員のCatherine Jami教授を招いて特別講演会（日本科学史学会京都支部との共催）を開催した。12月にはベトナム漢喃研究所である丁克順教授（DINH KHAC Thuan）を招いて特別講演会を開催した。また、『春秋繁露』郊祀諸篇、劉完素『素問玄機原病式』、『曆象新書』の読書会も随時行った。

研究発表、特別講演会の日程、演題、発表者は、以下の通りである。

4月26日 韓国での西洋天文学の受容について

全 勇 勲

康熙帝時代の数学研究

Catherine Jami

5月17日 望診・望氣・相術 坂出 祥伸

6月28日 術数類の歴史と「科学」 宇佐美文理

7月19日 「水」に生まれ「土」に帰る — 道教における五行説の展開 加藤 千恵

11月15日 五行と自然物、医薬 その即物的考察 森村 謙一

房中術と陰陽 大形 徹

12月20日 僧深方考 多田 伊織

越南古籍の特点關於越南的醫書

丁 克 順

元代の法制班

班長 岩井茂樹

2004年度から発足したこの研究班は、元朝時代の行政文書・法制文書の会読をつうじて、その時代の制度と社会について知見をひろめることを目的としている。参加者それぞれが、会読の作業のなかから研究すべき課題を見だし、この時代の制度と社会の特質を理解する足がかりを得ることを期待している。とくに、前後の時代との連続と断絶という問題について洞察を深めたい。すでに『大元聖政国朝典章』28～33および『新集至治条例』所収の礼部にかかわる部分の会読を終えた。当該部分について、校訂電子本文を閲覧・検索するWebアプリケーションを公開するとともに、「『元典章 礼部』校定と訳注（一）」として巻28、礼制一（朝賀 進表 迎送）の訳注を、同（二）として巻29、礼制二（服色 印章 牌面 誥命）、同（三）として巻30、礼制三



(婚礼 喪礼 葬礼 祭祀) として『東方学報』に掲載した。本年度は、研究報告のほか、『元典章』工部の会読をおこない、建築や紡織など当時の技術および建物、橋梁、船隻の管理制度などの問題について知見をひろげることができた。2008年1月～12月の報告題目と担当者を掲げる。

1月15日(火)

研究報告「金元以降の”五刑”の変遷  
と峻法重典」 岩井 茂樹

2月5日(火)

『元典章』58 工部一 造作一 段正  
岩井 茂樹

2月19日(火)

『元典章』58 工部一 造作一 段正  
古松 崇

3月4日(火)

『元典章』58 工部一 造作一 雑造  
矢木 毅

3月18日(火)

『元典章』59 工部二 造作二 橋道  
山崎 岳

『元典章』59 工部二 造作二 船隻  
植松 正

4月15日(火)

『元典章』58 工部一 造作一 雑造  
矢木 毅

研究報告「清末民初の舞台女優」  
張 雯

5月13日(火)

『元典章』59 工部二 造作二 橋道  
山崎 岳

5月27日(火)

『元典章』59 工部二 造作二 船隻  
植松 正

6月10日(火)

『元典章』59 工部二 造作二 船隻  
植松 正

6月24日(火)

『元典章』59 工部二 造作二 船隻  
植松 正

7月8日(火)

『元典章』59 工部二 造作二 船隻  
植松 正

『元典章』59 工部二 造作二 公廨  
岩井 茂樹

10月14日(火)

『元典章』59 工部二 造作二 公廨  
岩井 茂樹

10月28日(火)

『元典章』59 工部二 造作二 公廨  
岩井 茂樹

11月25日(火)

『元典章』60 工部三 役使 祇候人  
小野 達哉

12月9日(火)

『元典章』60 工部三 役使 祇候人  
小野 達哉

『元典章』60 工部三 役使 弓手  
岩井 茂樹

#### 唐代文学の研究

班長 金 文京

昨年度に引き続き、正倉院所蔵、光明皇后親筆の唐代書儀『杜家立成雜書要略』の講読し、訳注を作成した。また関連する研究発表を行った。講読箇所と担当者―第9「賀知故得官書」(上原尉暢)、第10「與知故在京書」(堂蘭淑子)、第11「與知故別近書」(同上)、第12「與知故別經宿書」,第13「頻得知故書」(好川聡)、「因使過知故不在留書」(同上)、第15「辱知故謝書」(同上)、第16「偶逢名客即離於後與書」(姜若冰)、「問知故遭災書」(同上)、第18「問知故逐賊書」(姜若冰)、第19「問知故遭官得雪書」(林香奈)、第20「辱名客就知故貸鷄鶩書」(同上)。研究発表―大野修作「『杜家立成』の書法史的側面」、斎藤茂「『唐人送別詩并尺牘』について」。

#### 真諦三蔵とその時代

班長 船山 徹

研究班4年目の今年度は、以下の諸文献の訳注を作成しながら内容分析を試みた。( )内は各回の担当者。続高僧伝曇遷伝(麥谷邦夫、古松崇志、齋藤智寛)、真諦撰俱舍論義疏佚文(那須良彦〔二回

担当)), 真諦撰涅槃經義記佚文(大竹晋), 真諦訳  
明了論本文(生野昌範, 三宅徹誠, 池田将則, 中西  
啓子, 室寺義仁), 真諦撰明了論疏佚文(那須良彦,  
池田将則, 藤井淳), 広州調査旅行報告(古勝隆一)。  
なお前年までと同様に, これらの解説資料に対して  
研究班開催後に提出された補足訂正等については,  
その都度, メーリングリストを通じて班員全員が知  
識を共有し, インターネット上での議論に加わった。  
本年度の解説をもって研究班発足当初に予定してい  
た文献の解説はほぼ全て取り上げたことになる。来  
年度は, 残るいくつかの補足的資料の解説, 各班員  
の研究報告, 既に行った解説資料に対する未解決の  
問題点の再検討などを行い, 研究報告書の作成に向  
かう。

#### 中国古鏡の研究

班長 岡村秀典

2007年度は昨年に引きつづき音韻論から漢鏡の  
銘文を論じた B. Karlgren, “EARLY CHINESE  
MIRROR INSCRIPTIONS” (BMFEA, No. 6,  
1934) を会読した。平行して実施した研究発表は以  
下のとおり。

1月29日 隋唐鏡の銘文 齊東方  
2月5日 楽浪墳墓群と出土鏡 森下章司

2008年度からは, 漢鏡・三国兩晋鏡・紀年鏡に  
分けて, 銘文の集成と注釈の作成にとりかかった。  
会読と研究発表は以下のとおり。

4月15日 漢鏡銘の会読 岡村  
4月22日 隋唐鏡成立の二段階 内記理  
5月13日 漢鏡銘の会読 岡村  
5月20日 三角縁神獸鏡銘の会読 下垣仁志  
5月27日 鄂城六朝墓の盛衰 向井佑介  
6月3日 漢鏡銘の会読 岡村  
6月10日 三角縁神獸鏡銘の会読 下垣  
6月17日 漢鏡七期の銘文検討拾遺 森下  
6月24日 漢鏡銘の会読 岡村  
7月1日 吳鏡銘にみる方言 光武英樹  
7月8日 三角縁神獸鏡銘の会読 下垣  
7月15日 漢鏡銘の会読 岡村  
10月7日 漢鏡二期における華西鏡群の成立と展  
開 岡村  
10月14日 漢鏡銘の会読 岡村

10月21日 紀年鏡銘の会読 光武  
10月28日 漢鏡銘の会読 岡村  
11月4日 三角縁神獸鏡銘の会読 下垣  
11月11日 漢鏡銘の会読 岡村  
11月25日 紀年鏡銘の会読 光武  
12月2日 三角縁神獸鏡銘の会読 下垣  
12月9日 漢鏡銘の会読 岡村  
12月14日 紀年鏡銘の会読 光武

#### 中国社会主义文化の研究

班長 石川植浩

冷戦体制の終結以後, いわゆる“社会主义の文  
化”は世界中で風化しつつあるが, 今日中国には,  
社会主义的な文化様式やイデオロギーがなお根強く  
残存している。現にそれらは, 一般民衆の思考様式  
になお影響を与え, 現体制の文化政策を方向付け,  
そして中国共産党史の歴史記述を強く規定している。  
また, 20世紀中国における社会主义文化の展開は,  
同時代日本の社会主义文化の影響を受けたばかりで  
なく, 戦後には日本の中国学に大きな影響を与えた  
ことも忘れてはなるまい。本研究班は, 20世紀中  
国の社会主义文化の諸相を主に歴史的視点から研究  
することを目指している。3年目の今年も, 昨年に  
引き続き, 京都大学現代中国研究拠点(人文研附属  
現代中国研究センター)の研究グループ1の事業と  
いう性格を合わせ持った活動を行い, 活発な議論を  
繰り広げることができた。特に, 本所の外国人研究  
員として桑兵氏が在任された2~7月は, 毎回の報  
告, 討議などすべてを中国語で行い, 当初の予想を  
こえる積極的な意見交換, 討議が見られた。各回の  
報告は以下の通りである。

1月25日 「中国の改革・開放初期(1980年代)  
の民族政策: 政策基調の変化と朝鮮族  
社会への適用」 崔 佑吉  
2月8日 「南京国民政府時代における上海越界  
築路地域の主権問題について — 警察  
権問題を中心に」 村田 省一  
2月22日 「戦後中国知識分子關於内蒙古自治的  
論争」 島田 美和  
4月18日 「中国“睡獅”形象探源」 石川 植浩  
5月9日 「金庸武俠小説在東亞世界 — 兼論社会  
主義文化中的武俠小説」 金 文京

5月23日 「議修京師貢院及科举制度的終結」	関 暁紅	音楽におけるロマン派とメロドラマの音楽	岡田 暁生
6月6日 「清末の“功利主義”」	川尻 文彦	一九世紀末イギリスのポピュラー・コンサヴァティ ズム	小関 隆
6月20日 「中華民国臨時政府的成立与新民会的 醞釀」	袁 廣泉	南アジアの歴史人類学	田辺 明生
7月4日 「国民政府時期 “党歌”，“国歌” 的制 定過程」	小野寺史郎	近世ヨーロッパの歴史叙述と政治思想	王寺 賢太
9月19日 「1980年代の民族政策と内モンゴル」	チョクト	幕末期の畿内・近国社会	岩城 卓二
10月3日 「青島におけるドイツ語新聞：1898－ 1914」	高 瑩瑩	精神分析的知を思想史的に位置づける試み	立木 康介
10月17日 「古井喜実と日中国交正常化」	鹿 雪瑩	ザガフカスの「義賊」と戦争	伊藤 順二
10月31日 「日中戦争前期における華北農村と中 国共産党：河北省涿源県の800日」	田中 仁	近代日本民俗誌システムの研究	菊地 暁
11月7日 「中華民国憲法制定史の再考」	中村 元哉	近世ヨーロッパの国際金融研究	坂本優一郎
11月21日 「孫文と医学：『紅十字会救傷第一法』 をめぐる」	武上真理子	近代西洋医学発展史研究および身体論	田中祐理子
12月5日 「章君宜と『文芸学習』について」	楠原 俊代	ナチス・ドイツの農業政策	藤原 辰史
		近代朝鮮在住日本人社会の研究	李 昇燁
		身体技法の認識論	倉島 哲
		近代詩の虚構性	久保 昭博
		再構築されるオリシャ崇拝 ― 異なる「人種・宗教」 をとりこむアフリカ系アメリカ人の社会運動 ―	小池 郁子
		戦間期日本の大衆社会・文化	黒岩 康博

### 東方学研究部

### 個 人 研 究

#### 人文学研究部

前近代日本の文明史的研究	横山 俊夫	中国の小説、演劇及び説唱文学の歴史	金 文京
近代東アジアにおける日本の法と政治	山室 信一	中国美術の様式と意味	曾布川 寛
フランス革命と近代の主体の成立	富永 茂樹	中国建築の様式・技法・空間	田中 淡
近代朝鮮の政治と社会	水野 直樹	近代中国の綿紡織業	森 時彦
在日米軍を中心とする軍事共同体の人類学的研究	田中 雅一	道教思想研究	麥谷 邦夫
文学理論の研究	大浦 康介	敦煌写本の言語史的研究	高田 時雄
ヴェーダ文献の生成と伝承の研究	藤井 正人	中国古代中世の法制	富谷 至
人種・エスニシティ論	竹沢 泰子	清代の文化と社会	井波 陵一
戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク	籠谷 直人	中国科学の思想史的考察	武田 時昌
近代天皇制の文化史的研究	高木 博志	近代中国の財政と社会	岩井 茂樹
近代日本の芸術と西洋	高階絵里加	先秦時代の金文	浅原 達郎
現代社会における生物学・生命科学	加藤 和人	古代中国の考古学研究	岡村 秀典
		川西走廊の漢藏諸語の記述言語学的研究	池田 巧
		インド・中国における仏教の学術と実践	船山 徹
		文字コード理論	安岡 孝一

## 人 文 学 報

イスラーム東漸史の研究 稲葉 穣  
仏教研究知識ベース — 禅仏教を例として

ウィッテルン, クリスティアン

中国共産党史の研究 石川 禎浩  
秦漢時代の制度史 宮宅 潔  
高麗官僚制度研究 矢木 毅  
中国注釈学史研究 古勝 隆一  
中国近世の国家支配の研究 古松 崇志  
文字定義情報に基づく文書表現系に関する研究

守岡 知彦  
中国古代中世の官制史 藤井 律之  
モンゴル時代の文化政策と出版活動 宮 紀子  
明代後期北遼南倭時代の中国社会 山崎 岳  
中国家具とその使用に関する研究 高井たかね  
中国唐宋の文学批評 永田 知之  
中国中世の考古学研究 向井 佑介  
近代中国におけるナショナリズムと政治シンボル

小野寺史郎

文化講座（人文研アカデミー /  
NHK 大阪文化センター）

2008年4月, 5月, 7月, 8月

於 NHK 大阪文化センター

時代を生きた女性たち — 中国編（楊貴妃から江青  
まで）

4月17日 楊貴妃 金 文京  
5月15日 呂太后 宮宅 潔  
5月19日 武則天 永田 知之  
7月17日 西太后 岩井 茂樹  
8月21日 毛沢東の妻たち 石川 禎浩

ヨーガの理論と実践（人文研アカデミー）

2008年4月, 5月, 6月

於 本館大会議室

4月15日, 22日, 5月13日, 20日, 27日, 6  
月3日 田辺 明生

共同研究セミナー（人文研アカデミー）

2008年6月

於 本館共通二講義室

身体＝フェティッシュをめぐる技術 — 強壮剤, 人体  
モデル, サイバーブッダ

6月5日 野生の技法 — 強壮する男性身体

田中 雅一

6月12日 剥製の技術 — 蠟人形館の夢

東京大学大学院人文社会系研究科

博士課程 妙木 忍

6月20日 複製技術の人間化 — さまざまなドー  
ルの変貌

広島大学大学院教育学研究科

専任講師 西村 大志

6月26日 複製技術の最前線 — サイバーブッダ  
の誕生

神戸大学大学院国際文化学研究科教授

岡田 浩樹

夏期公開講座（人文研アカデミー）

2008年7月5日

於 本館共通一講義室

古典再読 — いま読んだらこんなに面白い（3）

悪名高き正史 — 沈約『宋書』と魏収

『魏書』 藤井 律之

カフカスのとりこ — トルストイ以後

のカフカス山岳史の表象 伊藤 順二

読まれなかった古典 — 『大唐西域記』

雑考 高田 時雄

## 事 業 概 況

### 第4回 TOKYO 漢籍 SEMINAR

2008年3月7日

於 学術総合センター（千代田区一ツ橋）

儒・仏・道の經典観 — 唐代の宗教と  
書物

「玄宗と三教 — 『孝経』『道德真経』

『金剛般若経』注の撰述をめぐって」

麥谷 邦夫

「大乘菩薩戒の道 — 『梵網経』と東ア

ジア仏教」 齋藤 智寛

「隋唐の学界における孔安国」

古勝 隆一

特別講演特別講演（人文研アカデミー）

2008年3月25日

於 京都大学時計台百周年記念ホール

知識労働とプレカリアート

王寺 賢太

コメンテーター 市田 良彦

特別シンポジウム（人文研アカデミー）

2008年7月19日 於 本館セミナー室—  
「いま〈著作権・知的財産権〉問題が問いかけるもの」  
知的所有権とフリーソフトウェアにつ  
いて オルレアン大学法学部教授  
ミカイル・クシファラス  
データベース消費とコミュニケーショ  
ン志向—なにがコンテンツか？

哲学者、評論家、東京工業大学  
世界文明センター特任教授  
東 浩紀

「お互いさま」の自由ソフトウェア活  
動

フリーソフトウェアイニシアティブ理  
事長、産業技術総合研究所情報技術研  
究部門自由ソフトウェア部門研究グ  
ループ長 新部 裕  
コメンテーター 慶応技術大学  
産業研究所准教授 石岡 克俊  
大浦 康介

ジュニアアカデミー（人文研アカデミー / 京都

大学総合博物館 / 京都大学好奇心ネットワーク）

2008年7月26日 於 京都大学総合博物館  
イメージを読む作法—映像、写真、  
そしてマンガ  
“事実らしさ”はいかに作られるか—  
映像分析入門—

大阪大学文学部准教授

北原 恵

マンガをウラから読んでみる—マン  
ガ分析入門—

京都国際マンガミュージアム研究員

表 智之

棚田が美しいということ—写真分析  
入門—

菊地 暁

共同研究セミナー（人文研アカデミー）

2008年10月 於 本館共通—講義室  
アジアの仏教遺跡を掘る

10月9日 中国仏教文化の開花—仏塔と仏像の  
東伝— 向井 佑介

10月16日 ガンダーラの寺院と仏像

立命館大学文学部講師 下垣 仁志

10月23日 アンコール遺跡群と仏像埋納遺構

京都府立大学文学部准教授

菱田 哲郎

10月30日 仏教西漸の足跡—アフガニスタン以  
西の仏教遺跡— 稲葉 稔

文化講座（人文研アカデミー /

NHK 大阪文化センター）

2008年10月、11月、12月、2009年1月、2月

於 NHK 大阪文化センター

時代を生きた女性たち—ヨーロッパ編（マリー・  
アントワネットからレニ・リーフェンシュタールま  
で）

10月16日 マリー・アントワネット—フランス革  
命の露と消えた王妃 王寺 賢太

11月20日 ヴィクトリア女王—女王が君主である  
こと 小関 隆

12月18日 マリー・キュリー—科学・女性・20  
世紀 田中祐理子

2009年1月15日 ジョセフィン・ベーカー—人  
種を超えて 久保 昭博

2009年2月19日 レニ・リーフェンシュタール  
—ナチスを先導した映画監督

藤原 辰史

開所七九周年記念講演会

2008年11月20日 於 本館大会議室  
病原菌と千里眼—微生物学史のひと  
こまから—

田中祐理子

韓国の世界遺産・宗廟の歴史

矢木 毅

中国抗戦時期 木刻運動の一側面

日中藝術研究会・代表

三山 陵

レクチャー・コンサート（人文研アカデミー）

2008年11月18日 於 関西日仏会館稲畑ホール

第1次世界大戦のあと〜狂乱の1920

年代 岡田 暁生

ピアノ演奏 お茶の水女子大学大学院

人間文化創世科学研究科准教授

小坂 圭太

## 漢字情報研究センター講習会

情報交換・質疑応答

井波 陵一

## ・2008年度漢籍担当職員講習会（初級）

第1日（10月6日）

オリエンテーション	森 時彦
漢籍について	井波 陵一
カードの取り方ー漢籍整理の実践	梶浦 晋

第2日（10月7日）

工具書について	永田 知之
漢字目録カード作成実習	

第3日（10月8日）

目録検索とデータベースの検索	安岡 孝一
漢籍データ入力実習（1）	

第4日（10月9日）

和刻本について	
慶応義塾大学附属研究所斬道文庫准教授	高橋 智
漢籍データ入力実習（2）	

第5日（10月10日）

朝鮮本について	矢木 毅
実習解説	山崎 岳
情報交換・質疑応答	井波 陵一

## ・2008年度漢籍担当職員講習会（中級）

第1日（11月10日）

オリエンテーション	森 時彦
経部について 文学研究科准教授	宇佐美文理
叢書部について	高井たかね
叢書と漢籍データベース	安岡 孝一

第2日（11月11日）

史部について	藤井 律之
漢籍データ入力実習（1）	

第3日（11月12日）

子部について	武田 時昌
漢籍データ入力実習（2）	

第4日（11月13日）

集部について	人間・環境学研究科准教授
	道坂 明廣
漢籍データ入力実習（3）	

第5日（11月14日）

実習解説	山崎 岳
現代中国書について	
神戸大学大学院人文研究科准教授	濱田 麻矢

## 所 員 動 静

- ・中西裕樹（東方学研究部）助教は、辞任（2008年3月31日付）の上、同志社大学言語文化教育研究センター助教就任。
- ・齋藤智寛（東方学研究部）助教は、辞任（2008年3月31日付）の上、東北大学大学院文学研究科准教授就任。
- ・谷川穰（人文学研究部）助教は、文学研究科准教授就任（4月1日付）。
- ・小野寺史郎氏を助教（附属現代中国研究センター）に採用（4月1日付）。
- ・高井たかね（附属漢字情報研究センター）助教を東方学研究部に配置換（4月1日付）。
- ・袁広泉大学共同利用機関法人人間文化研究機構地域研究推進センター研究員は、客員准教授（附属現代中国研究センター、4月1日～2009年3月31日）。
- ・VITA, Silvio イタリア国立東方学研究所所長は、客員教授（文化研究創成研究部門、4月1日～2009年3月31日）。
- ・JACQUET, Benoit Marcel Maurice フランス国立極東学院京都支部長は、客員准教授（文化研究創成研究部門、8月1日～2009年3月31日）。
- ・小林善文神戸女子大学文学部教授は、特任教授（10月1日～2009年3月31日）。
- ・黒岩康博氏を助教（人文学研究部）に採用（10月16日付）。
- ・田中雅一教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2008年1月9日大阪発、マドラス大学、シャクティ寺院、エグモア地区に於いて文化接触についての資料収集及び調査を行い、SNDT 大学に於いてイスラーム女性についての資料収集を行い、1月28日帰国。
- ・田中淡教授（東方学研究部）は、1月15日成田発、台湾大学に於いて中国建築史・美術史研究の情報交換等、故宮博物館に於いて中国建築・生活空間・美術に関する研究史料蒐集、美濃鎮聚落・



- 古建築群に於いて中国農村聚落・民居の調査と生活習俗に関する資料蒐集を行い、1月21日帰国。
- ・小池郁子助教（人文学研究部）は、受託研究費により、1月18日大阪発、ダーラビ地区に於いて都市開発と環境問題についての調査を行い、マブサ地区に於いて多文化共生と環境問題についての調査を行い、1月27日帰国。
  - ・ウィッテルン、クリスティアン准教授（附属漢字情報研究センター）は、2月14日大阪発、中華仏学研究所に於いてEBTI after 15 and CBETA at 10 Years: Joint International Conference on Digital Buddhist Studiesに出席、2月20日帰国。
  - ・藤井正人教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月16日大阪発、Sarasvati Bhavana Libraryに於いてヴェーダ写本の調査を行い、2月25日帰国。
  - ・岡田暁生准教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、2月20日大阪発、バイエルン国立図書館に於いて19世紀音楽雑誌の調査を行い、2月27日帰国。
  - ・籠谷直人教授（人文学研究部）は、受託研究費により、3月2日大阪発、香港中文大学に於いてワークショップ“Empires, Networks, and Global Governance: Dialogues with Japanese Scholars”参加及び研究資料調査を行い、3月6日帰国。
  - ・竹沢泰子教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、3月1日大阪発、カリフォルニア大学、スタンフォード大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、ボモナ大学に於いて表象理論に関する研究打合せ等を行い、3月13日帰国。
  - ・田中雅一教授（人文学研究部）は、2月23日大阪発、コロンボ大学に於いて宗教マイノリティの研究を行い、3月13日帰国。
  - ・立木康介准教授（人文学研究部）は、3月6日大阪発、École Normale Supérieureに於いて「精神分析運動の歴史的展開と今日の意義を啓蒙思想の座標軸上で捉え直す試み」のための資料収集を行い、3月14日帰国。
  - ・水野直樹教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、3月11日大阪発、チェジュ大学校、チェジュ市近郊、ソウル市内に於いて植民地期戸籍（除籍簿）の調査を行い、3月15日帰国。
  - ・池田巧准教授（東方学研究部）は、共同研究費により、3月16日大阪発、中央研究院歴史語言研究所に於いて現代中国の言語社会に関する資料収集及び研究打合せを行い、3月19日帰国。
  - ・曾布川寛教授（東方学研究部）は、3月16日大阪発、国家文物局、西藏自治区博物館、ポタラ宮、薩加寺、夏魯寺に於いてチベット佛教美術に関する現地調査、資料蒐集を行い、3月22日帰国。
  - ・田辺明生准教授（人文学研究部）は、3月19日大阪発、ティンブーに於いてブータンにおける民主化・環境政策・世代間対立について、フィールド調査及び情報収集を行い、3月29日帰国。
  - ・高木博志准教授（人文学研究部）は、大学運営費により、4月3日大阪発、ハイアット・レージェンシーホテルに於いてアジア学会に出席及び報告を行い、4月8日帰国。
  - ・李昇煒助教（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金及び京都大学教育研究振興財団助成金により、四月三日常滑発、ハイアット・レージェンシーホテルに於いて米国アジア学会年次大会に出席及び報告、UC Berkeleyに於いて東アジア図書室所蔵の近代日本・朝鮮関係の文献調査及び閲覧を行い、四月一日帰国。
  - ・船山徹准教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、4月22日大阪発、中山大学、韶関市周辺、香港大学に於いて仏教関係研究打合せ及び仏教関係遺跡調査を行い、4月30日帰国。
  - ・古勝隆一准教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、4月22日大阪発、中山大学、韶関市周辺、香港大学に於いて仏教関係研究打合せ及び仏教関係遺跡調査を行い、4月30日帰国。
  - ・高田時雄教授（東方学研究部）は、4月20日大阪発、Institute of Oriental Studies, St. Petersburg Branch, Russian Academy of Sciences;



- St. Petersburg State University に於いて西域及びシルクロードの社会と文化に関する連続講義を行い、5月2日帰国。
- ・加藤和人准教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、4月28日大阪発、The Westin Hotel in Calgary に於いて International GE 3 LS Symposium 2008 に参加及び口頭発表、Renaissance Hotel Cleveland に於いて Translating ELSI に参加及び口頭発表を行い、5月6日帰国。
  - ・富谷至教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、5月18日大阪発、ライデン大学に於いてシンポジウム（礼儀と正義）の打合せを行い、5月22日帰国。
  - ・大浦康介教授（人文学研究部）は、3月2日大阪発、パリ第7大学に於いて講演及び共同研究参加を行い、5月31日帰国。
  - ・加藤和人准教授（人文学研究部）は、受託研究費により、6月10日大阪発、Pennsylvania Convention Center に於いて 6th ISSCR に出席し、ポスター発表を行い、6月16日帰国。
  - ・麥谷邦夫教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、6月19日大阪発、四川省社会科学院に於いて「道藏輯要」のテキスト、マークアップに関する中国側研究協力者との研究打合せを行い、6月24日帰国。
  - ・加藤和人准教授（人文学研究部）は、受託研究費（一部先方負担）により、6月22日大阪発、Human Fertilisation and Embryology Authority に於いて iPS 細胞研究の倫理的課題に関する資料収集及び意見交換を行い、St. Anne's College に於いて Governing Genetic Databases Project Int. Conference June 2008 に参加、口頭発表及び iPS 細胞研究の倫理的課題に関する資料収集を行い、6月28日帰国。
  - ・森時彦教授（東方学研究部）は、共同研究費（一部先方負担）により、7月1日大阪発、北京大学に於いて学術講演及び研究打合せを行い、7月6日帰国。
  - ・ウィッテルン、クリスティアン准教授（附属漢字情報研究センター）は、7月2日大阪発ハイデルベルグ科学院に於いてシンポジウム Buddhist Epigraphy in China に出席及び研究報告を行い、7月8日帰国。
  - ・田中淡教授（東方学研究部）は、5月16日大阪発、ハイデルベルグ大学芸術史研究所に於いて中国建築史に関するセミナーに参加、講義を行い、6月16日用務終了、7月10日帰国。
  - ・船山徹准教授（東方学研究部）は、6月18日大阪発、ハイデルベルグ学術アカデミーに於いて共同研究「中国仏教石経」参加および研究集会での発表を行い、7月15日帰国。
  - ・竹沢泰子教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、7月17日成田発、ハーバード大学において人種に関する共同研究打合せ、ニューヨーク大学及びカリフォルニア大学に於いて国際シンポジウム打合せを行い、7月23日帰国。
  - ・高田時雄教授（東方学研究部）は、7月15日大阪発、Institute of Oriental Studies, St. Petersburg Branch, Russian Academy of Sciences; St. Petersburg State University に於いて「19世紀末～20世紀初におけるロシアの中央アジア探検」研究プロジェクトに関する助言を行い、7月25日帰国。
  - ・石川禎浩准教授（附属現代中国研究センター）は、受託研究費により、7月17日大阪発、洛陽師範学院に於いて中国近現代史研究打合せ及び第3回中国近代史思想史国際学術シンポジウム出席、河南大学図書館に於いて中国社会主義運動に関する資料調査、河東博物館に於いて中国近現代史資料調査を行い、7月26日帰国。
  - ・山崎岳助教（附属漢字情報研究センター）は、7月23日大阪発、杭州市内に於いて杭州市内史跡調査、杭州工商大学に於いて国際シンポジウムに参加、研究発表、船山博物館等に於いて定海区史跡調査、馬墓港等に於いて帯海港調査を行い、8月1日帰国。
  - ・金文京教授（東方学研究部）は、7月27日大阪発、中央研究院歴史語言研究所に於いて「東亜文化意象之形塑」講演及び座談会に参加し、8月2日帰国。

- ・船山徹准教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、7月28日大阪発、白馬寺に於いて仏教史夏期集中講義および資料収集を行い、8月16日帰国。
- ・田辺明生准教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、8月1日大阪発、ブバネーシュワルおよびブリー近郊に於いて民主化にともなう社会変容についてのフィールド調査を行い、8月19日帰国。
- ・池田巧准教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、7月30日大阪発、中央民族大学に於いて西南中国の言語にかんする文献調査し、西南民族大学に於いてムニャ語とリュズ語の調査を行い、8月20日帰国。
- ・曾布川寛教授（東方学研究部）は、8月17日大阪発、青海省文物考古研究所、塔尔寺、薩迦寺、夏魯寺等に於いてチベット佛教美術に関する現地調査、資料蒐集を行い、8月27日帰国。
- ・小野寺史郎助教（附属現代中国研究センター）は、共同研究費により、8月23日大阪発、上海図書館等に於いて近代中国に関する資料収集を行い、9月2日帰国。
- ・ウィッテルン、クリスティアン准教授（附属漢字情報研究センター）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、7月15日大阪発、カールスルーエ大学に於いて仏教年表について研究打合せ、オスロ大学に於いて禅学ワークショップに参加、ライデン大学に於いて Leiden Symposium “Ritual, Art. And Justice” に出席し、9月5日帰国。
- ・富谷至教授（東方学研究部）は、京都大学教育研究振興財団助成金により、8月30日大阪発、国際シンポジウム「東アジアにおける礼と正義」打合せ及びシンポジウム開催を行い、9月5日帰国。
- ・矢木毅准教授（東方学研究部）は、京都大学教育振興財団助成金により、8月30日大阪発、国際シンポジウム「東アジアにおける礼と正義」打合せ及びシンポジウム開催を行い、9月5日帰国。
- ・石川禎浩准教授（附属現代中国研究センター）は、9月3日大阪発、国立博物館、チュラロンコン大学に於いてタイ移民史に関する調査、ディウ博物館に於いてポルトガル統治に関する調査、マニ・バワンに於いてインド独立運動史に関する調査を行い、9月12日帰国。
- ・王寺賢太准教授（人文学研究部）は、大学運営費（一部先方負担）により、7月31日大阪発、ライデン大学に於いて Scaliger Institute Scaliger Fellow として調査研究を行い、パリ国立図書館及び国立古文書館に於いて資料調査を行い、9月16日帰国。
- ・立木康介准教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月1日大阪発、École Normale Supérieure に於いて資料・文献収集を行い、9月16日帰国。
- ・小野寺史郎助教（附属現代中国研究センター）は、9月12日大阪発、上海市図書館等に於いて資料収集を行い、復旦大学に於いて復旦大学リベラリズム・ワークショップに参加し、9月17日帰国。
- ・田辺明生准教授（人文学研究部）は、9月13日大阪発、アジスアベバ市内等に於いてエチオピアの在来知に関するスタディーツアー、Hararl Cultural Center Hall に於いて国際ワークショップに討論者として出席し、9月22日帰国。
- ・池田巧准教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月14日大阪発、大英博物館に於いてチベット文献資料収集、ロンドン大学に於いて第41回国際鑑蔵言語学会に参加し、9月23日帰国。
- ・山室信一教授（人文学研究部）は、9月22日常滑発、南開大学に於いて講義及び講演を行い、9月28日帰国。
- ・岡田暁生准教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、9月26日大阪発、ライプツヒ音楽大学に於いて、ドイツ音楽学会国際大会出席及びシンポジウム発表を行い、10月3日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、10月1日大阪発、Collège de France に於いて「ポール・ペリオ：歴史から伝説へ」国際シンポジウム出席、Bibliothèque Nationale に於いて敦煌写

本の調査を行い、10月7日帰国。

- ・金文京教授（東方学研究部）は、10月15日大阪発、ソウル大学に於いて第1回奎章閣韓国学国際シンポジウム出席及び論文発表を行い、10月19日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、10月23日大阪発、南華大学、佛光山に於いて佛教文献與文学国際学術検討会に出席、台湾国家図書館に於いて表音文学書写中国語文献の調査を行い、10月28日帰国。
- ・田中雅一教授（人文学研究部）は、10月21日大阪発、エジンバラ大学、スターリング大学、アバディーン大学、グラスゴー大学、ランカスター大学、パース・スパ大学ロンドン大学に於いて英国における宗教教育の調査を行い、グランストンベリー市内に於いて多文化と宗教実態についての調査を行い、11月1日帰国。
- ・山室信一教授（人文学研究部）は、10月29日大阪発、中央研究院台湾史研究所に於いて国際学術検討会出席及び史料調査、台湾大学人文社会高等研究院に於いて講演を行い、11月2日帰国。
- ・立木康介准教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月23日成田発、ワシントン DC 市内及び議会図書館に於いて「精神分析運動の歴史的展開と今日の意義を啓蒙思想の座標軸上で捉え直す試み」のための資料収集を行い、11月2日帰国。
- ・水野直樹教授（人文学研究部）は、10月29日大阪発、中央研究院・台湾史研究所に於いて、「日本帝国植民地之比較研究」国際学術検討会に参加、報告及び台湾植民地支配関係資料調査を行い、11月3日帰国。
- ・李昇燁助教（人文学研究部）は、10月29日大阪発、中央研究院・台湾史研究所に於いて、「日本帝国植民地之比較研究」国際学術検討会に参加、発表及び台湾植民地支配関係史料調査を行い、11月3日帰国。
- ・坂本優一郎助教（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、10月13日大阪発、英国図書館、ナショナル・アーカイヴズに於いて

18世紀イギリスの証券投資関係史料の調査を行い、11月7日帰国。

- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、11月3日大阪発、首都師範大学に於いて講学を行い、11月9日帰国。
- ・池田巧准教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、11月3日成田発、中国社会科学院に於いて民族歴史文献国際検討会及び研究会議出席、宁夏社会科学院に於いて第三回国際西夏学会議及び研究会議に出席、11月11日帰国。
- ・小池郁子助教（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、11月9日大阪発、カルデシズモ団体に於いて心霊術運動資料の文献収集及び調査を行い、11月18日帰国。
- ・加藤和人准教授（人文学研究部）は、11月14日大阪発、Bethesda North Marriott Hotel&Conference Center に於いて「国際がんゲノムコンソーシアム第1回ワークショップ」に出席し、11月19日帰国。
- ・岡村秀典教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、11月15日大阪発、遼寧省博物館に於いて北魏出土文物の調査、北塔博物館に於いて思燕寺出土文物の調査、中国社会科学院考古研究所に於いて調査成果の意見交換を行い、11月22日帰国。
- ・向井佑介助教（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、11月15日大阪発、遼寧省博物館に於いて北魏出土文物の調査、北塔博物館に於いて思燕寺出土文物の調査、中国社会科学院考古研究所に於いて調査成果の意見交換を行い、11月22日帰国。
- ・稲葉穰准教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、11月16日大阪発、ウィーン市内に於いて中央アジア宗教史に関する研究打合せ、文化歴史博物館に於いて国際学会 Iranian Huns and Western Turks に出席・研究発表を行い、11月22日帰国。
- ・田辺明生准教授（人文学研究部）は、11月17日大阪発、ヒルトン・ホテルに於いてアメリカ人類学会 107 回大会出席し、11月25日帰国。

- ・池田巧准教授（東方学研究部）は、共同研究費により、11月20日大阪発、中央研究院語言研究所に於いて四川藏緬語國際檢討会に参加、11月25日帰国。
- ・ウィッテルン、クリスティアン准教授（附属漢字情報研究センター）は、11月19日常滑発、ハーバード大学に於いてBiographical Database Workshopに出席及び研究報告を行い、11月26日帰国。
- ・岡田暁生准教授（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部先方負担）により、11月22日大阪発、ドレスデン音楽大学に於いて第1次世界大戦の現代世界の成立に関する越領域的研究に関する資料収集、講義、音楽文化に関する資料収集を行い、11月28日帰国。
- ・小野寺史郎助教（附属現代中国研究センター）は、共同研究費（一部先方負担）により、11月27日大阪発、中山大学に於いて第2回「近代知識と制度体系転型」学会出席及び資料調査を行い、12月1日帰国。
- ・石川禎浩准教授（附属現代中国研究センター）は、受託研究費（一部先方負担）により、11月27日大阪発、中山大学に於いて第2回「近代知識と制度体系転型」学会出席及び資料調査を行い、12月4日帰国。
- ・籠谷直人教授（人文学研究部）は、12月3日大阪発、Inha Universityに於いて国際シンポジウム「居留地研究」に参加、報告を行い、12月6日帰国。
- ・山崎岳（附属漢字情報研究センター）は、文部科学省科学研究費補助金により、12月1日大阪発、湄州媽祖祖廟、泉州市博物館、海交史博物館等に於いて東アジア海域交流史関係史料調査を行い、12月8日帰国。
- ・ウィッテルン、クリスティアン准教授（附属漢字情報研究センター）は、12月2日大阪発、ハイデルベルグ科学院に於いてPNC国際学術会議に出席、研究報告を行い、12月8日帰国。
- ・富谷至教授（東方学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金により、12月5日大阪発、ライデン大学に於いて本年度開催のシンポジウム報告書

作成、来年度シンポジウムの協議、ハンブルグ大学に於いて出土文学資料研究に関する打合せ、ミュンスター大学に於いて二国間共同研究の進め方に関する協議を行い、12月11日帰国

- ・菊地暁助教（人文学研究部）は、12月11日大阪発、国立民俗博物館に於いて2008年度韓国民俗学会国際学術大会報告、河回村に於いて「文化財保護制度における世界遺産条約の戦略的受容と運用に関する日韓比較研究」現地調査及び資料調査を行い、12月17日帰国。
- ・高田時雄教授（東方学研究部）は、12月8日大阪発、Institute of Oriental Manuscripts, Russian Academy of Sciencesに於いてロシア探検隊収集「西域出土の文献—文字の文化史—」展のための予備調査を行い、12月19日帰国。
- ・田中雅一教授（人文学研究部）は、受託研究費により、12月10日常滑発、コロンボ大学に於いて災害と環境についての調査を行い、12月22日帰国。
- ・久保昭博助教（人文学研究部）は、文部科学省科学研究費補助金（一部私費）により、12月11日大阪発、パリ市内及びフランス国立図書館に於いて第1次世界大戦関連資料調査を行い、12月23日帰国。
- ・李昇燁助教（人文学研究部）は、12月25日大阪発、国家記録院に於いて朝鮮植民地支配と李王家に関する資料調査を行い、12月31日帰国。

## 外国人研究員

- ・XIFARAS, Mikhail Dorelオルレアン大学法学部教授  
法とフィクション  
(文化生成研究客員部門)  
受入教員 大浦教授  
期間 2月16日～8月15日
- ・桑 兵 中山大学歴史系教授  
近代中日学術交流史  
(文化連関研究客員部門)  
受入教員 森教授

期間 2月19日～8月18日

- 牟 啓松 華東師範大学歴史系教授  
石刻資料から見た漢唐間の地方社会及びその国家との関係

(文化生成研究客員部門)

受入教員 富谷教授

期間 8月20日～2009年2月19日

- STERLING, Marvin Dale  
インディアナ大学ブルーミントン校  
人類学部准教授  
アフリカ人ディアスポラを超える黒人性の表象：  
東アジアの場合

(文化連関研究客員部門)

受入教員 竹沢教授

期間 10月1日～12月31日

## 招へい外国人学者

- ESPOSITO, Monica

道蔵輯要の研究

受入教員 麥谷教授

期間 2006年4月1日～2009年3月31日(継続)

- 余 欣 復旦大学歴史学系副教授  
日本所蔵博物学漢籍研究

受入教員 高田教授

期間 2007年9月25日～2009年9月24日(継続)

- 高 啓安 蘭州商学院教授  
中国におけるシルクロード飲食文化の研究

受入教員 高田教授

期間 2007年11月20日～2009年11月19日  
(継続)

- 黄 仕 忠 中山大学教授  
日本蔵中国戯曲の文献学的研究

受入教員 金教授

期間 2月15日～3月15日

- 蔡 榮婷 中正大学中国文学系教授  
宋代禪宗叙事文学研究

受入教員 高田教授

期間 2月18日～8月20日

- 関 暁紅 中山大学歴史系教授  
清末官制改革についての研究

受入教員 石川准教授

期間 2月19日～8月18日

- BREEN, John ロンドン大学准教授  
日吉大社の社会史：近世から近代へ

受入教員 高木准教授

期間 2月19日～7月31日

- ANDERL, Christoph University of Oslo, Post-doctoral research fellow; senior lecturer Research on Chan-Buddhist language and literature in the Tang and Song periods

受入教員 ウィッテルン准教授

期間 3月19日～6月12日

- 王 三慶 国立成功大学中国文学系教授  
漢語四聲與詩律, 音楽之關涉研究

受入教員 高田教授

期間 4月1日～4月30日

- JAMI, Catherine Florence CNRS • Chargée de recherche  
梅文鼎の中西数学研究とその科学思想

受入教員 武田教授

期間 4月1日～4月30日

- CULLEN, Christopher Needham Research Institute, Director  
中国古代の数学, 数理天文学

受入教員 武田教授

期間 4月1日～4月30日

- 房 徳鄰 北京大学歴史系教授  
中国近代文化史

受入教員 森教授

期間 4月10日～6月9日

- 廖 幼華 国立中正大学歴史系教授  
唐代南選地區的地域性差異 — 時間與空間的動態研究

受入教員 高田教授

期間 4月15日～5月14日

- 柳 楊善 カトリック大学校人文学部教授  
日本におけるユン・ドンジュ(尹東柱)研究動向に関する調査



受入教員 水野教授

期間 6月20日～8月19日

- 王 永平 首都師範大学歴史学院教授  
東西方文明的互動與唐代文化的走向

受入教員 高田教授

期間 9月12日～9月28日

- 顔 娟英 台湾・中央研究院歴史語言研究所研究員  
西周時期佛教藝術

受入教員 曾布川教授

期間 11月12日～12月11日

- 林 炳徳 忠北大学校人文大学史学科教授  
中国法制史の研究

受入教員 富谷教授

期間 12月22日～2009年12月21日

- 鞏 文 中国社会科学院考古研究所副研究員  
3～6世紀の装身具からみた東アジアの文化交流

受入教員 岡村教授

期間 12月5日～2009年3月5日

## 外国人共同研究者

- SCHERRMANN, Sylke, Ulrike

青島旧蔵ドイツ語文献中の法制関係資料の調査

受入教員 岩井教授

期間 2006年10月1日～2009年3月31日(継続)

- 趙 成雲

植民地朝鮮における日本視察団の派遣に関する研究

受入教員 水野教授

期間 1月15日～2009年1月14日

- 烏 蘭

清代のモンゴル史 — 満洲族とモンゴル族の関係を中心に

受入教員 岩井教授

期間 4月1日～2009年3月31日

- MURPHY, Regan Harvard University, PhD student

江戸時代の仏教と国学の関係の再評価(契沖・富

永仲基・慈雲)

受入教員 高木准教授

期間 6月15日～8月1日

- 魯 相豪 プリンストン大学東アジア研究科・博士課程

日本帝国の都市計画と植民地中産階級の政治動員  
— 京城を中心に —

受入教員 水野教授

期間 9月24日～2009年8月31日

- SVELYEVA, Anna エルミタージュ美術館東洋部研究員

1891年ニコライ訪日と有栖川官邸

受入教員 高木准教授

期間 10月13日～10月23日

## 外国人研究生

- 安 鍾洙

身体によるハーフへの他者化と、その変動

受入教員 田中教授

期間 10月1日～2009年3月31日

- MCDONALD, Kate

日本帝国における観光

受入教員 水野教授

期間 10月14日～2009年10月13日

## 出版物

### 紀要

東方学報 81冊(紀要第157冊)

2007年9月25日刊

東方学報 82冊(紀要第158冊)

2008年3月25日刊

人文学報 第96号(紀要第159冊)

2008年4月30日刊

東洋学文献類目 2005年度

2008年3月27日刊

東洋学文献類目 2005年度補遺版

2008年3月27日刊

人文学報 第 97 号 (紀要第 160 冊)

2008 年 8 月 31 日刊

ZINBUN number 40

2008 年 3 月刊

## 研究報告その他

「敦煌写本研究年報」第二號

西陲發現中國中世寫本研究班 高田時雄編

2008 年 3 月 31 日刊

シルクロード発掘 70 年 雲岡石窟からガンダーラまで

2008 年 10 月 1 日刊

所報人文 第 55 号

2008 年 6 月 30 日刊

東方学資料叢刊 第 16 冊

2008 年 2 月 15 日刊

漢字と情報 第 16 号

2008 年 3 月 10 日刊

東洋学へのコンピュータ利用 第 19 回研究セミ

ナー

(2008 年 3 月 21 日実施)

2008 年 3 月 21 日刊

漢字と文化 第 12 号

2008 年 3 月 31 日刊

「石刻千字文」〈上・中・下〉

2008 年 3 月 31 日刊

「漢字文化の全き継承と発展のために」

京都大学 21 世紀 COE プログラム 東アジア世界の人文情報学研究教育拠点報告書

2008 年 3 月 31 日刊

漢字文化研究年報 第 3 輯

2008 年 3 月刊

「漢字文化三千年」国際シンポジウム報告書

〈2007 年 12 月 10 日～12 日実施〉

2008 年 2 月刊

オープン・フォーラム「漢字文化の今 5」報告書 — 漢字文化の継承と発展 —

〈2008 年 2 月 10 日実施〉

2008 年 3 月刊